

Kataribe: Audiobook.AI ユーザーズマニュアル Beta V1.0

Kataribe: Audiobook.AI（語り部）は、小説の原稿から章ごとの朗読動画（縦型・横型）を作る朗読生成アプリです。台本づくり → 音声・画像の生成 → チェック → 動画の組み上げ、までをこの一つの画面で行います。生成には外部サービスのAPIを使い、費用はそれぞれのサービスに直接支払います。最少は ElevenLabs と Gemini（または OpenAI）の2つ、最大で Anthropic と HeyGen を加えた4つです。

目次

1. [導入と初期設定](#)
2. [制作の流れ（全体像）](#)
3. [新プロジェクト・章立て](#)
4. [台本（人間の関所①）](#)
5. [音声・画像の生成](#)
6. [チェック（人間の関所②）と直し方](#)
7. [挨拶・締め・BGM](#)
8. [組み上げと完成ファイル](#)
9. [設定の一覧](#)
10. [費用の目安](#)
11. [困ったとき（FAQ）](#)
12. [用語集](#)
13. [利用規約（EULA）](#)

1. 導入と初期設定

1. 入手のしかたは2つあります。どちらも管理者権限は要りません。Python や ffmpeg のインストールも不要（同梱）です。
 - **Microsoft Store（おすすめ）**：サイトの「Microsoft Store で入手」のバッジか、Store アプリで「Kataribe」を検索して「入手」
(<https://apps.microsoft.com/detail/9nph4438c3cl>)。更新は Store が自動で配信します。アンインストールはスタートメニューの右クリックか「設定」→「アプリ」から。Store 版は API キー (.env)・声の発音辞書・ログを %LOCALAPPDATA%\Kataribe に置きます（「このアプリについて」に場所が出ます）
 - **インストーラー（Setup.exe）**：サイトからダウンロードした Kataribe_Beta_V1.04_Setup.exe のような exe をダブルクリックし、画面の案内に従います。%LOCALAPPDATA%\Kataribe に入り、デスクトップとスタートメニューに「Kataribe」ができます。アンインストールは Windows の「設定」→「アプリ」から（API キー (.env) と発音辞書の控えが ドキュメント\Kataribe に残り、次にインストールしたとき自動で戻ります）。Setup.exe・同梱の ffmpeg・ライブラリはすべて株式会社 RAY の証明書で署名しているので、Windows 11 の Smart App Control (SAC) が「オン」の PC でも動きます。ダウンロードのとき、ブラウザーに「一般的にダウンロードされていません」と出て、ファイル名が「未確認…crdownload」のまま止まる場合があります（新しい版は配布実績が少ないために出る表示で、ファイルに問題はありません）。ダウンロードの一覧（Edge は Ctrl + J）で「…」→「保存」→「保持する」を選ぶと保存されます。初めて実行するとき「Windows によって PC が保護されました」と出たら「詳細情報」を押し、発行元が「株式会社 RAY」であることを確かめて「実行」を押します。発行元が違う場合は実行せず、お問い合わせください
2. Kataribe を起動 → 専用ウィンドウが開きます（ブラウザは使いません）。画面右上の「終了」で閉じます
3. はじめての起動ではトップに「初回セットアップを始める」が出ます（キー登録 → 接続テスト → 最初のプロジェクト）。あとは「初期設定」で変更できます
4. **Pro 版**: 初期設定の「Pro 版のライセンスキー」に購入したキー（KTRB-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX）を入れると、完成動画の透かしを外せ、マルチアクター（役者）が使える、商用利用できます。無料版でも制作機能はすべて使えます（透かしあり・商用不可。規模は1章 3分まで・1プロジェクト 3章まで・完成は月 5章まで。締めは「Powered by Kataribe:

Audiobook.AI」の固定カード 3秒)。「このアプリについて」で今のエディションが分かります。商用利用には ElevenLabs 側も有料プランが必要です

5. ツールの言語: 初期設定の「ツールの言語」で日本語／English を切り替えられます（マニュアル・利用規約などの文書も言語に合わせて切り替わります）

6. トップの「まずはサンプルで試す」→「サンプルを作る（日本語／English）」で、同梱の短編（2章・各1分ほど）のプロジェクトができます。最初の1本はこれで流れを体験するのがおすすめです（初回セットアップの最後にも同じボタン）

サービス	用途	必須？	取得先
ElevenLabs	朗読音声・BGM	必須	elevenlabs.io → プロフィール → API Keys
Gemini	紙芝居の画像・台本の下書き	OpenAI とどちらか一方が必須	aistudio.google.com/apikey（画像生成は課金設定が必要。無料枠では動きません）
OpenAI (ChatGPT)	紙芝居の画像・台本の下書き	Gemini とどちらか一方が必須	platform.openai.com → API keys (Billing でクレジットを入れておく)
Anthropic	台本の下書き・NGの自動修正を Claude に任せる	任意（無ければ画像と同じAIが担当）	console.anthropic.com → API Keys
HeyGen	語り部アバターの口パク動画	任意（アバター構成のときだけ）	app.heygen.com の APIダッシュボード

キーはこのPCの `%LOCALAPPDATA%\Kataribe¥.env` にだけ保存され、各サービスの認証以外には送られません。プロジェクトの保存先も初期設定で変えられます（既定は `ドキュメント\Kataribe\projects`）。

2. 制作の流れ（全体像）

新プロジェクト → 章立て → 章フォルダ作成 → 台本（承認） → 音声・画像を生成 → チェック（OK/NG） → 挨拶・締め・BGM → 組み上げ → 配信用mp4

人が判断する場所は太字の2か所だけです。それ以外はボタン一つで進み、各ページの「次の一手」が今やるべきことを案内します。章ページの上部には工程バー（台本 → 生成 → チェック → 組み上げ → 完成）があり、今の位置が金色で示されます。プロジェクトの章一覧にも同じ段階のバッジと残り件数が出ます。

3. 新プロジェクト・章立て

- トップの「新プロジェクト」で、原稿 (.docx / .txt / .pdf)、作品名とその読み、語り部の名前、声（一覧から選択。▶ 試聴で聴ける）、アスペクト比（9:16 縦 / 16:9 横 / 1:1）、1章の目安尺、章の構成（挨拶・締め・ロゴ・ヘッダー）を選びます
- 原稿を選ぶと、その場で章立てのプレビュー（章数・見出し・字数）と言語の判定が出ます。PDF は縦書き・段組だと本文の順序が崩れることがあるので、作成後に「章立ての確認・修正」で確かめてください（画像だけのスキャン PDF は文字が取れません）
- 章は原稿の「第N章」見出しから自動検出します。別の書き方（「1-1.」「Chapter 1」など）は、プロジェクトページの「章立ての確認・修正」で候補ボタンから選ぶか、正規表現を指定します
- 各章が数行しかない短編集や詩のような原稿は、「原稿全体を 1 章にする」（新プロジェクトのチェック、または「章立ての確認・修正」）を使うと、章に分けずに全体をひとつの章として扱います。章見出しの行は本文に残り、見出しだけの独立したカットとして朗読されます（絵は先頭の見出しにだけ付き、あとの見出しは直前の絵を引き継ぐ）。章名は作品名になります。あとから切り替えると、既存の章フォルダはゴミ箱へ退避され、章フォルダを作り直します
- 原稿を選ぶと、プロジェクト名・作品名をファイル名から入れ、.txt なら言語（日本語／English）と章見出しの有無を判定して案内します。ロゴ画像（png / jpg）もここで任意で指定できます
- 「フォルダ作成」で章ごとの作業フォルダができます（プロジェクトの保存先の中）。作成済みの章には、この列に最終更新日時（章の状態・ログの新しいほう）が出ます
- 画像スタイルは「プリセット」（シネマ／水彩／墨絵／アニメ背景／油彩／絵本／写実／ノワール／SF）から選んで手直しできます

プレゼン（PPTX）モード（V1.04）

- 新プロジェクトで原稿に .pptx を選ぶと、プレゼンモードになります。各スライドがそのカットの絵になり、各スライドのノート（発表者メモ）に書いた文章をそのまま読み上げます。AI は台本を書きません
- 長いノートは文の切れ目で 100 字前後のカットに割ります（同じスライドの絵を引き継ぐ）。ノートの無いスライドは読み上げないので飛ばします
- スライドは PowerPoint（この PC にインストールされているもの）で PNG に書き出します（プロジェクト直下の スライド/）。PowerPoint が無い PC では、PowerPoint の「ファ

イル → エクスポート → PNG」で書き出した画像を スライド/ に slide001.png … の名前で置き、章ページの「スライドの画像を取り込み直す」を押します

- 作成時の既定: アスペクト比はスライドに合わせ (16:9 など)、冒頭・締め・右上ヘッダーは「なし」、朗読のテロップは出しません (設定の「プレゼンの朗読テロップ」で出せます)
- 流れは小説と同じです: フォルダ作成 → 台本ページで朗読文を確認して承認 → 音声を生成 → チェック → 組み上げ。画像は AI で作らないので、画像の NG はアップロードで差し替えます
- ノートの括弧書きの演出指示 (「(※少し声のトーンを落とし、深刻さを演出する)」など) は読まずに外し、その直後の文の頭に感情タグ ([serious] など) を置きます。「(熱的死)」のような補足の括弧はそのまま読みます
- ノート (発表者メモ) の無い PPTX でも作れます。ノートの無いスライドは、元原稿があればそれから、無ければスライドの題と本文から AI がスピーチを書きます (フォルダ作成時に自動。あとから元原稿をアップロードして「スピーチを書いて台本を作り直す」で書き直せます)。台本 AI のキーが無いときは、ノートの無いスライドは飛ばします
- **スピーチを AI で書く:** 章ページの「スピーチを書いて台本を作り直す」で、ノートの無いスライド (「全スライド」を選べば全部) のスピーチを AI が 4 段で書きます。① 元原稿 (.docx / .txt / .pdf を章ページの「元原稿」にアップロード。任意) を読んで要点を整理 → ② 各スライドの内容を把握 (文字の無い画像だけのスライドは、画像として AI に読ませて文字起こし) → ③ スライドごとに、そのスライドに書いてあることを書いてある順に話す原稿を作る (スライドが主、原稿が従。食い違えばスライドを優先) → ④ スピーチがそのスライドと合っているか点検して、ずれた枚だけ書き直し。「しゃべりのトーン」(例: 明るく元気に／落ち着いた丁寧な説明調。設定ページにもあります) は言い回しと感情タグに反映します。結果は 原稿/AIスピーチ.json に残り (要点整理と読み取りも)、台本ページで直せます
- PPTX を直したら 原稿/ の .pptx を置き換え、章ページの「スライドの画像を取り込み直す」(絵だけ変えた) か「ノートから台本を作り直す」(ノートも変えた。音声は作り直し) を押します

4. 台本（人間の関所①）

- 章ページ → 「台本の編集・承認」。章フォルダを作ると台本の下書きが自動で始まります（複数章は順番に、1章1〜2分）。作り直したいときは「(AI名) で台本を下書きし直す」。原文からカット割り・朗読文・情景（画像の指示）が自動で作られます。どのAIが担当するかはプロジェクト設定の「生成AI」で選べます（画像: Gemini か ChatGPT。台本: 画像と同じAI か Claude）
- 規則: 1カットの朗読文は60〜100字（長いと後半が崩れます）、合計は目安尺の±15%、数字は漢数字、感情タグ [softly] 等は控えめに。カットの冒頭を漢語（二字以上の熟語）や固有名詞で始めない（発音が崩れやすい。「その」「やがて」等を前に置く）。台本ページはこれらの規則違反に警告を出します
- 表示テキスト（テロップ）は朗読文から自動で作られます（「表示テキストを朗読文から作り直す」）。朗読と表示がずれるとテロップのタイミングも狂うので、手で大きく変えないのがコツ。表示は章の原文と突き合わせて作るので、朗読文で読みのためにかなに開いた語（人名・難読語・AI などの英字）は原文の表記に戻ります。登場人物の名前の表記が揺れたカット（「志水ゆい」「みなとりょういち」など）には台本ページに警告が出ます（役者に登録した名前が対象）
- テロップを出したくないカットは、カットの「テロップ」を「テロップ出さない」にして保存します（全カットを一括で切り替えるボタンもあります）。表示テキストは残りますが動画には焼かれません。組み上げ済みの章は再組み上げで反映されます
- ラベル「挨拶」「締め」は冒頭・締め（アバター）用の予約語です。本文のカットに付けると動画に入らないので、別のラベルを使ってください（台本ページに警告が出ます）
- 画像は「情景」が入ったカットにだけ作られます。情景を空にして保存すると、そのカットの画像は退避され、動画では直前のカットの絵を引き継ぎます。全カットに付けるなら「情景が空のカットをClaudeで埋める」
- 話者: 設定で役者を登録してあると、カットごとに「話者」（語り部か役者名）を選べます。下書きも登場人物のセリフを役者のカットに割ります（役者カットの朗読文はセリフそのもの。「」や「と言った」は入れない）。役者カットの表示テキスト（テロップ）は自動で「役者名「セリフ」」の形になります（誰のセリフか分かるように。音声はセリフだけを読みます）。
- 世界観の固定文: 設定ページの「世界観の固定文（画像の共通設定・英語）」は、全カットの画像プロンプトに前置されて舞台・時代・素材・光を固定します。空なら最初の下書きのときに原稿から自動で作られ、「原稿からAIで作る」で作り直せます。既存の章で舞台を

外れた絵が混ざるときは、台本ページの「情景を世界観に合わせて書き直す」で全カットの情景を書き直してから画像を作り直します

- 場所と参照画像: 同じ場所の絵がアングルごとに別の部屋にならないよう、台本の各カットに「場所」（例: 大阪のイベント会場）が付き、場所ごとの美術設定（間取り・調度の配置・素材・光）を全カットの画像プロンプトに入れます。さらに、同じ場所で先に作った画像を参照画像として AI に渡し、舞台の造りをそろえたまま別のアングルで描かせます。時間帯（夜明け～深夜）もカットごとに付き、窓の外・空・光をその時間帯にそろえます（続いている場面は同じ時間帯のまま）。場所は下書きのあとに AI が自動で付け、場所の無い以前の章も画像を作るときに付けます。下書きの情景もそれまでの章で決めた場所の設定に合わせて書かれ、別の人物の職場・部屋は別の場所として設計されます（同じ組織のオフィスを複数の人物が使う場合は1つの場所）。台本ページの「場所」「時間帯」と設定ページの「場所の設定」で直せます。使わないときは設定の「同じ場所の絵をそろえる」を「そろえない」に
- 役者のセリフの演技: 下書きと話者の割り当てで、前後の地の文から読み取った演技指示（[whispers] [shouts] [sighs] などの感情タグと「……」の間）をセリフの先頭に付けます。既存の章は「セリフと地の文を分けて話者を割り当て直す」で付き直ります話者を変えて保存すると、その音声は別の声なので退避され、生成し直しになります。役者に登録していない人物のセリフも別カットになり話者名が付きます（声が未設定なら語り部の声。設定で役者に足せば声が付く）。セリフと地の文が同じカットに混ざっているときは警告が出るので、「セリフと地の文を分けて話者を割り当て直す」で分けます（カット番号が変わるので音声・画像は退避、承認し直し）
- 内容を確認したら「**保存して承認**」。承認するまで生成ボタンは押せません
- 「+下にカット追加」で挿入したカットの番号は、26b・26c のような枝番になります（以降の番号はずらしません。音声・画像のファイル名が番号で決まるので、ずらすと作り直しになるためです）。番号を空のまま保存しても自動で枝番が付き、重複した番号は保存できません

5. 音声・画像の生成

- 章ページの「音声を生成」「画像を生成」。ボタンに未生成の本数と概算費用が出て、押すと確認ダイアログが出ます
- 生成は**同時 4 件**で待ちなしに送ります（上限に当たったときは自動で待って再送します）。進み具合は上部の作業中バーに進捗（音声 12 / 48）と残り時間が出て、終わると自動でページが更新されます
- すでにあるものは作り直しません。作り直したいときはチェック画面から個別に。全カットの音声を作り直すなら章ページの「音声を全部作り直す」（今の音声は `_old/` に退避し、チェックは未チェックに戻ります）
- 途中で止めたいときは作業中バーの「中断」。生成は今の3件が終わり次第止まり、できた分は残ります（続きは「生成」でもう一度）。組み上げは今の工程を止め、途中の成果は次回に引き継がれます
- 20秒以上かかった作業が終わると Windows の通知音が鳴り、画面は自動で更新されます（別の窓で作業していても気づけます）

6. チェック（人間の関所②）と直し方

- 章ページ → 「チェック」。カットごとに音声を聴き、画像を見て **OK / NG** を付けます。NG にはメモ（「種 が たね と読まれた」など）を書きます
- 上部で表示を絞り込めます（全部／未チェックだけ／NGだけ／要確認だけ）。「次の未チェックへ」とキー操作（J/K 次/前、Space 再生、O OK、N NG）で速く回せます。「全カットをOKにする」「全カットを未チェックに戻す」も上部に
- **要確認:** 音声の長さが文字数の目安から大きく外れたカット（読み飛ばし・言い直しの疑い）に自動で印が付きます。聴いて問題なければ OK に
- **不適切な生成物の報告:** AI が作った画像・音声・文章に不適切な内容（差別・暴力・性的な内容・権利侵害など）があれば、チェック画面の上部か各カットの「報告」から開発元へ報告できます。お使いのメールソフトで、対象のプロジェクト・章・カットを入れた報告メールが開きます（アプリが自動で送ることはありません）。「このアプリについて」からも開けます
- **音声のNG:** NGにすると直し方が3つ開きます。① **おまかせで直す**（メモをもとに発音辞書の定石 → AI の順で**必ず朗読文を変えて**1本作り直す。同じ文で引き直しても直らないため）、② **自分で朗読文を書き直す**（書き直した文で引き直す）、③ **読み方の候補を聴き比べる（上級）**（ある語の表記候補を複数書いて一括生成し、聴き比べる。数字や固有名詞に有効）。どれも表示テキスト（テロップ）を新しい文に作り直します（読みのためにかなに開いた語は、テロップでは元の表記のまま）
- 新しいテイクはカードに並びます。「どこをどう直したか」（かなに開いた／言い換えた／前置を足した）と、そのときの朗読文が見えます。聴き比べて「この音声を採用」→ 自動で OK になり、台本とテロップもその文に揃います
- **画像のNG:** メモ（何が駄目か。「人物が写る」「暗すぎる」など）を書いて「おまかせで直す」を押すと、AI がメモを反映して情景を書き換えてから作り直します（同じ情景では作り直しません。メモが無ければ構図・視点・光を変えます）。自分で情景を書いて作り直すこともできます。「NGの画像をメモをもとに直して作り直す」で一括も可。新しい情景はテイクに記録され、採用すると台本に反映されます
- チェック画面上部の「**NGをまとめて作り直す**」で、NG の音声と NG の画像を1回で作り直せます（音声は辞書の定石・言い換え、画像はメモをもとに情景を書き換えて。新しいテイクを聴いて/見て採用するのは今までどおり）
- **自分の画像を使う:** 各カットの画像欄の「自分の画像を使う」でファイルを選ぶと、動画の比率に合わせて拡大・切り抜きされ、テイクとして並びます（「この画像を採用」で使う）。情景の無いカットに入れた場合はそのまま採用されます

- 設定で語り部や役者の声を変えると、その声のカットの音声は退避されて「未生成」に戻ります（章ページの「音声を生成」で新しい声に）。
- 役者のカットには名前のバッジが付き、音声欄にも話者（語り部／役者名）が出ます。直し方は語り部のカットと同じです（引き直しはその役者の声で行われます）
- 採用で確定した読みの修正は、作品の発音辞書に自動で記録され、次の章から最初から反映されます
- 発音辞書の画面（プロジェクトページから）では、種別を3つから選びます。**読みを直す**（対象を「語（正しい読み）」で書く。例: 値踏み（ねぶみ）。台本の下書きと自動修正でかなに開き、テロップは漢字のまま）、**要注意としてメモ**（読みは置き換えず、要注意の印だけ付ける）、**問題なし**（要注意の印を外す）。迷ったら「読みを直す」だけで足ります。章・症状・対処は空欄でも動きます（症状はNGメモとの照合に使います）。主要人物の名前と読みを、作品を始める前に入れておくと効果が大きい

7. 挨拶・締め・BGM

- **挨拶・締め:** 章ページの「冒頭・締めの処理」カード。設定の方式（既定はタイトルカード）に応じて必要なものだけが出ます。「アバター」なら「冒頭の挨拶動画を生成」「締めの挨拶動画を生成」（HeyGen が設定されていれば口パク動画でクレジット消費、無ければ立ち絵の静止動画）、「タイトルカード」なら音声なしの静止カード（組み上げ時に自動生成）、「なし」ならその旨だけ。背景は章ページの「タイトルカードの背景」で、情景の指示（英語。「この章を読んで AI で作る」を押すと、章の舞台・モチーフ・感情の流れ・意図を把握したうえで象徴的な情景を書き、その読みも欄の下に出る）から候補を何枚でも生成し、サムネイル（クリックで拡大）から「この背景を採用」。手持ちの画像も候補として取り込めます
- 口パク素材は保存され、2回目以降はテロップだけ作り直します（無料）。挨拶の音声を引き直して採用した場合は自動で作り直し、無理に作り直すなら「アバターから作り直す」
- **BGM:** 章ページのBGM欄。曲の指示（英語）は章の内容から AI が自動で作ります（「曲の指示を作る」で作り直し可）。その指示から生成（ElevenLabs のクレジット消費。75秒 ≒ 5,000）するか、手持ちの mp3 等を取り込みます。「このBGMを採用」で組み上げ時に本編へうっすらミックス（音量は設定 0.15 が基準。曲はフェード付きでループ）。候補ごとの「朗読と重ねて試聴」で、その章の朗読の冒頭25秒に BGM を設定の音量で重ねた音が聴けます（採用前の確認用。組み上げと同じミックス）

8. 組み上げと完成ファイル

- 章ページの「組み上げ」。整音 → テロップ設計 → 動画レンダリング → 波形検証 → ヘッダー焼き込み → BGM → 挨拶＋本編＋締め連結、まで自動（課金なし。数分～十数分。タイトルカード構成なら冒頭・締めの静止カードもここで自動生成）
- 完成: 章フォルダの <作品名>_第N章_配信用.mp4（挨拶・締め入り）と …_本編.mp4（朗読のみ）。章ページの先頭に完成カードが出て、再生／フォルダを開く／本編のみ／検証画像へ進めます。動画の再生ページではシークバーで再生位置を動かします
- 完成動画の左下には小さく「Powered by Kataribe」が入ります（無料版。Pro 版は設定で外せる）。完成 mp4 のメタデータにはエディション（Free / Pro のライセンス ID）が記録されます
- テロップやロゴを直して組み上げ直すのは何度でも無料。生成物は消さず _old/ に退避されます
- 章を最初からやり直すときは、章ページ下部の「全クリアして最初から」（生成物は _old/ に退避）
- **ゴミ箱と退避:** フッターの「ゴミ箱」で、削除したプロジェクトの一覧（復元／完全に削除）と、各章の退避フォルダ (_old) の一覧（フォルダを開く／全クリア前の状態を章に戻す／完全に削除）を扱えます。プロジェクトをゴミ箱へ移すのは、トップの一覧の「削除」か、プロジェクトページ下部の「削除（ゴミ箱へ）」。
- プロジェクト名（フォルダ名）は設定ページ下部の「プロジェクト名の変更」で変えられます（作品名とは別）。作品名を設定で変えたときは、各章を組み上げ直すと動画のヘッダーとファイル名が新しい作品名になります（旧題名の動画は組み上げ時に _old/題名変更 へ退避）
- 完成動画のエンコードは静止画向けに調整してあり（V1.04）、スライドや情景画像の動画は画質を保ったまま小さくなります（例: 2分34秒のプレゼン動画で10MB前後）。前に作った章は、組み上げ直したときに作り直されたカットから小さくなります

9. 設定の一覧（プロジェクトページ → 「設定」）

設定ページは全項目を表示します。右上の「細かい項目を畳む」で AIモデル名・読み上げ速度・表記規則・テンプレなどを隠せます（次回も覚えています）

項目	内容
作品名・読み・ブランド名・語り部	挨拶テンプレ（{narrator}{novel_reading}{brand}{chapter_kanji}等）に入ります
声	ElevenLabs の一覧から。声ごとの発音の癖は voices/ の辞書に蓄積され、作品をまたいで使えます
音声モデル	ElevenLabs の読み上げモデル（eleven_v3、eleven_v4 など。一覧は API から）。既定は eleven_v4。感情タグが使える v3 以降がおすすめ。変えると、次に作る音声から新しいモデルになります
役者（マルチアクター）	Pro 版 。「原稿から登場人物を割り出す」でセリフのある名前付きの人物が名前だけ入る（プロジェクト作成時にも自動）。あとは使う人物の声を選ぶだけ。登場人物の呼び名と声（ElevenLabs）を最大12人。名前を入れた行だけ有効。声を空にすると語り部と同じ声。役者の声の発音辞書も朗読に反映されます
HeyGen アバター・種別・エンジン	自分の写真アバター先頭40件から。一覧に無いLOOK IDは「手入力…」
立ち絵	HeyGen 未設定時の静止アバター／タイトルカードの背景
アスペクト比・目安尺・読み上げ速度・BGM音量	動画のキャンバス（9:16=1080×1920 / 16:9=1920×1080 / 1:1）、台本の長さの基準、BGMの比率
章の構成	挨拶／締めの有無、形式（アバター／タイトルカード）、ロゴ、右上ヘッダー（ロゴ・作品名・章名。ロゴを載せない設定では作品名・章名が右端に寄る）、部（第N部）の扱い
テロップの文字サイズ・フォント・太さ	小さめ／標準／大きめ／特大。フォントは同梱の 4 種（明朝: Noto Serif JP・Shippori Mincho、ゴシック: BIZ UDPGothic、丸ゴシック: Zen Maru Gothic）、太字の有無。ヘッダー・挨拶・タイトルカードの文字も同じフォントに。変えたら次の組み上げで映像を作り直す
テロップの表記規則	数字（漢数字／アラビア半角／全角）、英字。朗読は発音の都合で漢数字固定

左下の「Powered
by Kataribe」

Pro 版で「入れない／入れる」を選べる（既定は入れない）。無料版は常
に入る

画像スタイル・挨拶
テンプレ・締め
テンプレ

全カット共通の絵柄指定と、挨拶・締めの定型文

ロゴは設定ページの「ロゴ画像」でファイルを選ぶと（またはプロジェクトフォルダ直下に `logo.png` /
`logo.jpg` を置くと）、挨拶・締め・本編の右上に載ります。

10. 費用の目安（実測）

もの	目安
朗読音声	約 \$0.0002／字（6分の章 $\div$ 1,800字 $\div$ \$0.4）。 ElevenLabs の月次文字数枠も消費
画像	約 \$0.04／枚（20枚 $\div$ \$0.8）
BGM	75秒で ElevenLabs クレジット約 5,000（文字数枠と共通）
HeyGen 口パク	アバターの尺ぶんのクレジット。挨拶＋締め（約30秒）で約 \$1
台本の下書き・自動修正（画像と同じ AI、または Claude）	1章あたり数円～数十円

6分の章を一通り作ると **おおむね \$1.5～3**（作り直しの回数で変わります）。生成ボタンには毎回その場の概算が出ます。プロジェクトページに「これまでの生成 $\div$ \$」（テイク数からの概算）と ElevenLabs の今月の使用文字数が出ます。章ページのカードにもその章の分が出ます

11. 困ったとき（FAQ）

音声の読みが直らない

同じ文で引き直しても直りません。かなに開く（種→しゅ）、言い換える（懷疑→疑い）、「その」を前に置く、のどれかで文を変えます。「おまかせで直す」はこれを自動で行い、何を変えたかをテイクに表示します。

「要確認」の印が付いた

音声の長さが文字数の目安から大きく外れています（読み飛ばし・言い直しの疑い）。聴いて問題なければ OK、おかしければ NG にして「おまかせで直す」。

朗読の後半が崩れる・行が抜ける

1カットが長すぎます（120字を超えると起きやすい）。台本で文の切れ目でカットを割ってください。自動下書きは60～100字に収めます。

テロップと朗読がずれる

表示テキストを手で書き換えると、字数比で決める表示タイミングが狂います。台本ページの「表示テキストを朗読文から作り直す」で揃えてください。

画像に文字や人物が出る

情景（英語）から文字・看板・人物の描写を外して作り直します。画像スタイルの共通指定に "No text, no people" が入っているかも確認。

Gemini の画像生成が 429 で失敗する

無料枠には画像の割り当てがありません。aistudio.google.com/apikey の「Set up billing」で課金を有効にしてください。初期設定の「テスト画像を1枚生成」で確認できます。

ボタンが押せない

台本が未承認のとき（生成ボタン）、または作業中のときです。作業中は「🕒 作業中」の枠が出て、終わると自動で押せるようになります。

専用ウィンドウで動画から戻れない・文字が選べない

動画・画像はアプリ内の再生ページで開き、左上の「← 戻る」で戻れます。文字の選択・コピーもできます。もしウィンドウが真っ白なら `Kataribe_Browser.cmd`（予備）をお試しください。

アプリを更新したい

Microsoft Store 版は Store が自動で更新します（すぐ更新したいときは Store アプリの「ライブラリ」→「更新プログラムを取得」）。インストーラー版は、サイトから新しいセットアップの exe をダウンロードして実行するだけです。どちらも API キー（.env）とプロジェクトはそのまま残ります。起動中の Kataribe はセットアップが閉じます。

ログはどこ？

各章の作業ログは章ページの下部。アプリ自体のログは `%LOCALAPPDATA%\Kataribe\kataribe.log` です。

12. 用語集

用語	意味
プロジェクト	1 作品ぶんの入れ物。原稿・設定・発音辞書・章フォルダが入る
章フォルダ	章ごとの作業場所。台本・音声・画像・テイク・完成動画が入る（手作業時代と互換）
台本	章をカットに割った朗読の設計図。関所①（承認）の対象
カット	台本の最小単位。朗読文・表示テキスト・情景・話者を持ち、音声 1 本と画像 1 枚が対応する
朗読文（TTS）	実際に読み上げる文。60～100 字、漢数字、感情タグは控えめ
表示テキスト（テロップ）	画面に出す字幕。朗読文から自動で作リ、空行でブロック（画面の入れ替わり）を区切る
情景	そのカットの画像の指示（英語）。空なら直前のカットの絵を引き継ぐ
場所	そのカットの絵の舞台（例: 大阪のイベント会場）。同じ場所のカットは同じ美術設定と参照画像で描く
語り部／役者／話者	語り部は地の文を読む声。役者は登場人物ごとの声（Pro 版）。話者はカットがどちらで読まれるか
テイク	生成した音声・画像の 1 回ぶん。カードに並び、聴き比べ・見比べて「採用」する
採用	そのテイクを正式な音声・画像にすること。採用すると OK になり、朗読文・情景も台本に反映される
チェック（OK／NG）	関所②。音声と画像を別々に聴いて・見て判断する。生成しただけでは OK にならない
関所	人が判断する 2 か所。台本の承認と、チェック。ここは自動化しない
要確認	音声の長さが文字数の目安から大きく外れたカットに自動で付く印（読み飛ばし・言い直しの疑い）
おまかせで直す	NG のメモを読んで、辞書の定石や AI の言い換え（画像なら情景の書き換え）で必ず何かを変えて作り直す

読み実験	ある語の表記候補を複数書いて一括生成し、聴き比べる (③)。数字・固有名詞の読みに
発音辞書	読みの決まりごと。作品の辞書 (固有名詞など) と声の辞書 (声の癖、作品をまたいで持ち回る)
要注意語	その声で発音が壊れやすい語。タグ直後に置かない
冒頭・締め	本編の前後。タイトルカード (静止画・無音)、アバター (語り部が話す)、なし。無料版の締めは Powered by カード固定
BGM 候補	生成または取り込んだ曲。「朗読と重ねて試聴」で確かめ、採用すると組み上げ時に本編へミックス
組み上げ	整音 → テロップ → 動画 → 検証 → ヘッダー → BGM → 冒頭・締めの連結。課金なし、何度でも
本編／配信用	本編はヘッダー無しの朗読動画。配信用は冒頭・締め・ヘッダー・BGM 入りの完成 mp4
_old (退避)	作り直しや設定変更で外れたファイルの置き場。消さないで戻せる
ゴミ箱	削除したプロジェクトの置き場 (projects/_trash)。フォルダを戻せば復活する
無料版／Pro 版	無料版は透かし・末尾カード・規模の上限あり・商用不可。Pro 版はライセンスキーで解錠、商用可
ライセンスキー	KTRB-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX の 16 文字。初期設定で登録・解除

各画面の見出しの「？」から、このマニュアルの該当節に飛べます。